

1. 蘇原南保育園の保育

◎保育理念

児童福祉法の精神に基づき、『子ども達の最善の利益』を保証するために保護者や地域との連携を基に、子どもの人権と主体性を尊重し、生き生きとした保育者の豊かな人間性の陶冶と専門的な知識の向上に努め子育て支援を積極的に行う。

◎保育目標

- ・保育目標　　すこやか・ほがらか・おもいやり
- ・養護の目標　　生命の保持と情緒の安定を図る
- ・教育の目標　　友達と仲よく意欲的に遊べる子、学ぶ子

◎保育方針

保育目標を具体的に実践するために「元気な子・仲よく遊ぶ子・心の豊かな子・自分で見つけ創り出す子・あいさつのできる子」の5項目を掲げ、安心できる保育環境のもと、子どもの主体性を尊重した保育を大切にしていける。

2. 本年度の重点事業の取組結果

① 保育の質の向上

岐阜県からの受託研修(岐阜県保育協議会による研修)による階層別・テーマ別・ブロック別研修、各務原市が実施する保育士研修会による研修、保育士等キャリアアップ研修、法人による公開保育・法人研修会の実施など外部研修(OFF-JT)を通して保育者の質の向上を図りました。また、園内による研修(OJT)として公開保育の実施を年齢別に実施しています。公開保育の前に「事前公開保育」を設け、参観した保育士が積極的に意見交換をするなかで、保育内容をより高めるための対話的実践研修を実施しています。この研修は常勤・非常勤問わず研修に参加し、レベルアップを図る工夫をしています。その他、配慮の必要な子への対応として、外部講師による1か月ごとの定期的な指導を受けています。午前中に全クラスの保育を参観、午後からのケース会議で知識や対応の方法などの意見交換をし、日常の保育に活かしています。基本的には加配をつけず全員の職員が関わって見守る体制を作り、その都度保育者ができる限り適切な対応ができるようにスキルの向上を図るとともに、療育施設や保護者との連携も併せて取り組んでいます。また、子ども一人ひとりの成長発達やクラスの困り感を確認するなど極め細かな保育を心がけ次に繋げています。

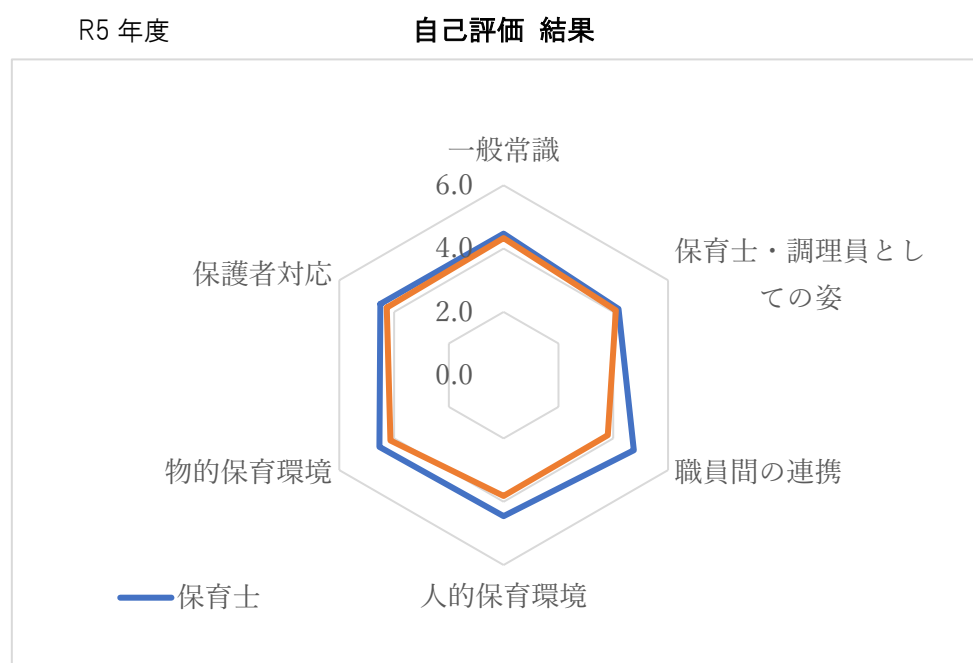
他にも法人全体によるテーマ:「不適切保育について」の研修を行いました。研修を実施する前に各園で事前に「不適切保育についての事案アンケート」を実施することで保育者自身が保育を振り返って、不適切な保育がなかったかを点検するとともに、事案毎に適切な対応についてグループで議論を行い保育者個人の保育の改善に繋げ、園全体の保育の質の向上を図ってきました。

② 保育を豊かにするための取り組み

R6年度、7/1～7/31までの1か月期間オンデマンド配信による、岐阜県保育研究大会:第2分科会「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて」発表に向けた園内研修を計画的に見通しを持って取り組みました。配慮の必要な子どもばかりではなく、0歳児から5歳児の子ども一人ひとりに焦点を

あてた育ちの確認、集団生活によるクラスの育ちなどを年齢ごとに確認していくなど、様々な経験を基本的な生活習慣や遊びを中心とした活動の中で取り入れていきました。民営化以来取り入れた活動として外部講師による活動「幼年体育」は年間 36 回、2 歳児から 5 歳児までの子ども達を対象に実施しています。また、4・5 歳児を対象とした月 2 回の ECC による保育英語の取り組みも行っています。保育を展開する中で保育室等の物的環境の見直しをしました。〈コロナ〉が 5 類になり子ども同士の異年齢保育の取り組み、保育活動の見直し、遊具の充実(砂場の設置)、保育室の棚の設置や柔らかなマット交換のなど、子ども達にとって安全で使い勝手の良い過ごしやすい環境を整えてきました。子ども達同士の関りを充実させる中で非認知能力やコミュニケーション能力の向上を図るための工夫、保護者向けには、日々の保育を紹介する掲示物の展示などお便りだけではなく実際を見ていただけるようにもしてきました。

2023年度 9 月及び 1 月に職員(保育士・調理員)対象に自己評価を実施し、その結果をグラフ化しました。その結果をもとに、園運営や保育活動の総括と次年度以降の改善に向けての課題をまとめてみました。



3. 本年度総括と来年度以降の課題

① 保育の内容

蘇原南保育園が安心・安全・安定した保育園であるために物的及び人的環境整備できました。また、子どもの“伝えたい気持ち”をくみとって、対応することに心掛けることで、園児が安心して、楽しくすごせるように配慮もしてきました。

一方で、子どもの憧れや思いやりの心を育む、異年齢の関わりが持てる機会や、自然や季節を感じる事ができる機会を十分に設定していくことが来年度以降の課題として抽出されました。

② 保護者への対応

保護者に積極的に挨拶をするとともに、安心と信頼を得ることを意識して、コミュニケーションをとるよう心掛けることができました。一方で、保護者と相談をしていく中で子育て支援や保護者支援を行い、課題解決を図っていくことが来年度以降の課題として抽出された。